

いのちと自然を
守り育てる

価値ある製品を創り、社会課題の解決へ

古来、人のいのちを支えてきた「農業」。

私たちクミアイ化学工業は、国産第一号の農薬を市場に提供して以来、

安全で効果的な農薬の研究開発・普及を図ることで、
人と自然の調和が織りなす豊かな実りを守ってきました。

日本での小さな一歩から始まった私たちは、
グローバル規模での食料の安定確保という課題に直面し、
世界に向けて大きく踏み出しています。

農薬の創製から製造・販売に至る一体化したプロセスにより、

さらなる研究の精度と製品の品質向上を目指して

人類共通の食料問題解決への挑戦を続けてまいります。

さらに、2017年5月のイハラケミカル工業との経営統合により化成品事業も加わり、

人の暮らしを豊かにする製品・サービスの提供にも努めてまいります。

— 企業理念 —

私たちは創造する科学を通じて

「いのちと自然を守り育てる」ことをメインテーマとし、

安全・安心で豊かな社会の実現に貢献します。

— 経営ビジョン —

1. 常に世界に目を向け、世界市場でリーダーシップをとるグローバル企業を目指す
2. 常に新しい価値を創造し、顧客のニーズと信頼にこたえる
3. 常に高い目標に挑戦し、活力溢れスピード感ある人間集団を形成する
4. 常に透明性ある企業活動を通じ、全てのステークホルダーとの調和を図る

— ステークホルダーとの関わり —



編集方針

はじめに

「クミアイ化学工業CSRレポート2019」は、当社のCSR基本方針に基づき、CSRの課題、目指す方向性および取り組みの進捗をステークホルダーの皆さまにご理解いただくことを目的に発行しました。

本レポートの基本的な構成立てとしてISO26000の中核主題に沿った形で取り組みを掲載しています。またCSRの取り組みとSDGs（持続可能な開発目標）の関連性も示す報告となっています。

「農家のための農業製造」という思いから始まった当社は、昭和から平成、そして令和へと、時代の変化とともに農業生産に貢献することを事業の柱として歩んでまいりました。設立70周年を迎えたことから、絶えず社会課題の解決に挑み続けてきた製品開発の歴史を辿る特集を組みました。

安全・安心な農作物を消費者の皆さまにご提供するためには、農薬を購入・使用する農家の皆さまに農薬を適正に使用していただくことが重要であると考えており、「消費者課題」で農薬の適正使用に関する情報・技術の提供活動について記載しています。

今後、ステークホルダーの皆さまからいただくさまざまなご意見を十分に活かしながら、継続的なCSRの取り組みの向上につなげていくとともに、本レポートの充実も図ってまいります。

【報告対象期間】

2018年11月～2019年10月の取り組み期間を中心に報告していますが、一部、期間外の活動や継続的な取り組みも取り上げています。定量データは、原則直近5年間の経年推移を掲載していますが、各年度の算定期間・時期は当該データの注記を参照ください。

【報告対象範囲】

本レポートは、クミアイ化学工業株式会社単体の活動報告となっています。ただしP5～7の「クミアイ化学グループの事業活動マップ」、P26～28の「クミアイ化学グループのCSR活動」などでは、グループ会社の取り組みを掲載しています。

【発行時期】

2020年1月(次号2021年1月予定)

【参考ガイドライン】

- ISO26000（社会的責任の国際規格）
- GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン」第4版
- 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

※報告書の記述について

本レポートには過去と現在の記述だけでなく、発行時点における計画や将来の見通しを含んでいます。これらは記述の時点で入手できた情報に基づく仮定や判断に基づくものであり、将来の活動や結果が掲載内容と異なる可能性があります。

【SDGsに関する取り組み】

当社は2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」の達成に向け、事業活動を通じ社会課題の解決に貢献しています。当社は今後も、「いのちと自然を守り育てる」ことを目指し、従業員一人ひとりが日々の取り組みにおいて、SDGsの達成に向け寄与していきます。

Contents

- トップメッセージ……………3
- クミアイ化学グループの事業活動マップ……………5
- 特集**
- クミアイ化学工業 製品開発史……………8
- 企業理念と CSR 基本方針……………11
- 組織統治……………12
- 人権と労働慣行……………13
- 公正な事業慣行……………15
- 安全衛生……………17
- 環境……………19
- 消費者課題……………21
- コミュニティへの参画・発展……………23
- クミアイ化学グループのCSR活動……………26

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



トップメッセージ



事業を通じたCSR活動をSDGsの視点で捉え直し、 企業理念の実現と従業員のやりがいに つなげていきます。

はじめに各地に甚大な被害をもたらした台風15号および台風19号により亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の皆さまにお悔み申し上げます。

また、今年は、ほかの地域でも多くの自然災害が発生しましたが、皆さまの安全と被災された地域の一刻も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

昨年度、初めて発行したCSRレポートの 反響をお聞かせください。

「CSRレポート2018」を作成した最大の目的は社内にCSR活動の認知と理解を促すことでした。レポートを全従業員へ配布するとともに、事業活動マップをパネルにして社内掲示するなど、さまざまな啓発を行いました。農業を製造する当社の事業が、CSRの観点で社会や地域とどのように関わっているのかが見える化したことで、従業員の興味喚起と意識の向上につながったと思っています。今後も継続してCSRの理解と浸透を図っていくことが重要と考えています。

決算説明会でCSR活動について報告し、株主総会に出席された皆さまへもレポートをお配りするなど、社外のステークホルダーにも当社CSRの情報発信に努めました。概ね良好な反響をいただき、当社の企業価値を高める一助として一定の成果はあったと評価しています。

今後の目標は、クミアイ化学グループ全体へCSRの概念を広げ、グループとして取り組みを推進することです。本レポート（CSRレポート2019）では、グループ各社の活動紹介を組み込みました。また、来年度発行予定の「CSRレポート2020」は、クミアイ化学グループのレポートとして情報開示の方針で、その準備を進めています。

SDGs活動概念を作成されたのは なぜですか。

SDGs活動概念（P11参照）は、当社としてのSDGsの取り組みを分かりやすく示すために、「攻めのCSR」や「守りのCSR」をコンパクトにまとめたものです。当社の企業理念（私たちは創造する科学を通じて「いのちと

自然を守り育てる」ことをメインテーマとし、安全・安心で豊かな社会の実現に貢献します）は、当社の目指すCSR活動を示していると考えられますが、長期的な視点に立脚した企業理念と中期的なCSR基本方針との間の架け橋となるものが必要となることから、中期経営計画を紐づけました。「いのちと自然を守り育てる」という理念のもとに開発、製造される当社の製品は、それ自体がSDGsの課題解決に直結しているが、従業員の理解が不十分でした。「攻め」と「守り」、それぞれのCSR活動がSDGsの17目標のいずれに貢献しているのかを明示することで、日々の業務とCSR活動のリンクについて理解が図られ、実践する意義をより感じられるはずです。また当社におけるSDGsやCSRの取り組みをステークホルダーに提示するツールとしても機能します。

たとえば、攻めのCSRで目標1「貧困をなくそう」を掲げたことは、農業そのものの社会的価値について捉え直す機会になります。戦後間もない日本では、水稲除草剤により農家が圃場で四つんばいになり草を取る過酷な労働から解放されました。今、当社がインドで販売している「ノミニー®」も、その普及に伴って手取り除草の負担を減らしています。インドの農家は除草にとられていた時間を使って工場で働き、農業外の収入も得られるようになりました。当社が製造する農業によって農作業を効率化すれば、飢餓だけでなく、貧困をなくすることも可能なのです。

日本国内では農家の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の拡大といった問題が深刻化しています。一方で世界全体に目を向ければ、人口増加に伴う食料の安定供給が求められ、環境への影響を抑えながら農業の効率化に貢献する農業が求められています。解決に向けた道筋の一つが、AIやIoTを活用したスマート農業です。当社はドローンメーカーに出資して作物の生育や病虫害の発生に合わせて農業をスポットで散布する「空からの精密農業」の開発を進めています。農業は農産物を安定かつ大量に生産するためには不可欠な資材です。適正に使用すれば、農家や消費者に価値をもたらす、SDGsの目標をはじめとする社会課題の解決に貢献できると考えています。

リスク管理を含めた「守りのCSR」で 注力することは何でしょうか。

まず、コーポレートガバナンスです。取締役会に次ぐ重要な機関として経営会議、常勤役員会、各種委員会があり、これらをチェックする内部監査室というガバナンスのフローが適切に機能しています。万一問題が発生した時に備えて、グループ会社も含めた内部通報制度を設けています。さらに、従業員一人ひとりの意識を高めるために、「規倫読本」という企業人としての心得と責任をまとめた冊子を作り、グループ全社の役職員に配布

しました。個人情報保護や知財権などの法規からさまざまなハラスメント防止に至るまで一人ひとりが良識ある行動を行うために必要な知識を掲載しています。

また、人材マネジメントに関して当社は中期経営計画のスローガンに「幸せで日本一の持続企業」を掲げています。今年度実施した「従業員幸福度調査」の結果、当社従業員の幸福度が総じて高く、やりがいを持って働いていることがわかりました。すべての部門で上司と部下、同僚間の意思疎通を重視し、風通しのよい職場づくりを図っていることや、時差通勤など従業員が働きやすい制度を拡充していることが要因と認識しています。加えて仕事を通して自己実現ができるように、「存在感」、「達成感」、「将来への希望」を持つことの大切さを機会があるたびに従業員に説いて意識改革を促してきたことも大きいと思います。今後、業務とCSRとの関連を理解することにより当社で働くことの喜びと誇りが一層高まることに期待しています。

CSRに関する今後の計画や課題を お聞かせください。

次年度の「CSRレポート2020」では、クミアイ化学グループとしてのマテリアリティ（CSR重点課題）の公表を目指しており、現在課題の抽出を進めています。

2017年にイハラケミカル工業と合併し化成品事業に進出したことにより、農業中心だった事業領域がアラミドやウレタンなどの高機能樹脂、電子材料や医薬品原料などへと広がりました。原料メーカーや製造受託メーカー、製品ユーザーなど、私たちのCSR活動を報告する範囲が広がり、機会も増えています。クミアイ化学グループとしてSDGsとの関わりを含めたCSRへの取り組みを社内外に伝え、理解と共感を得られるように努力してまいります。

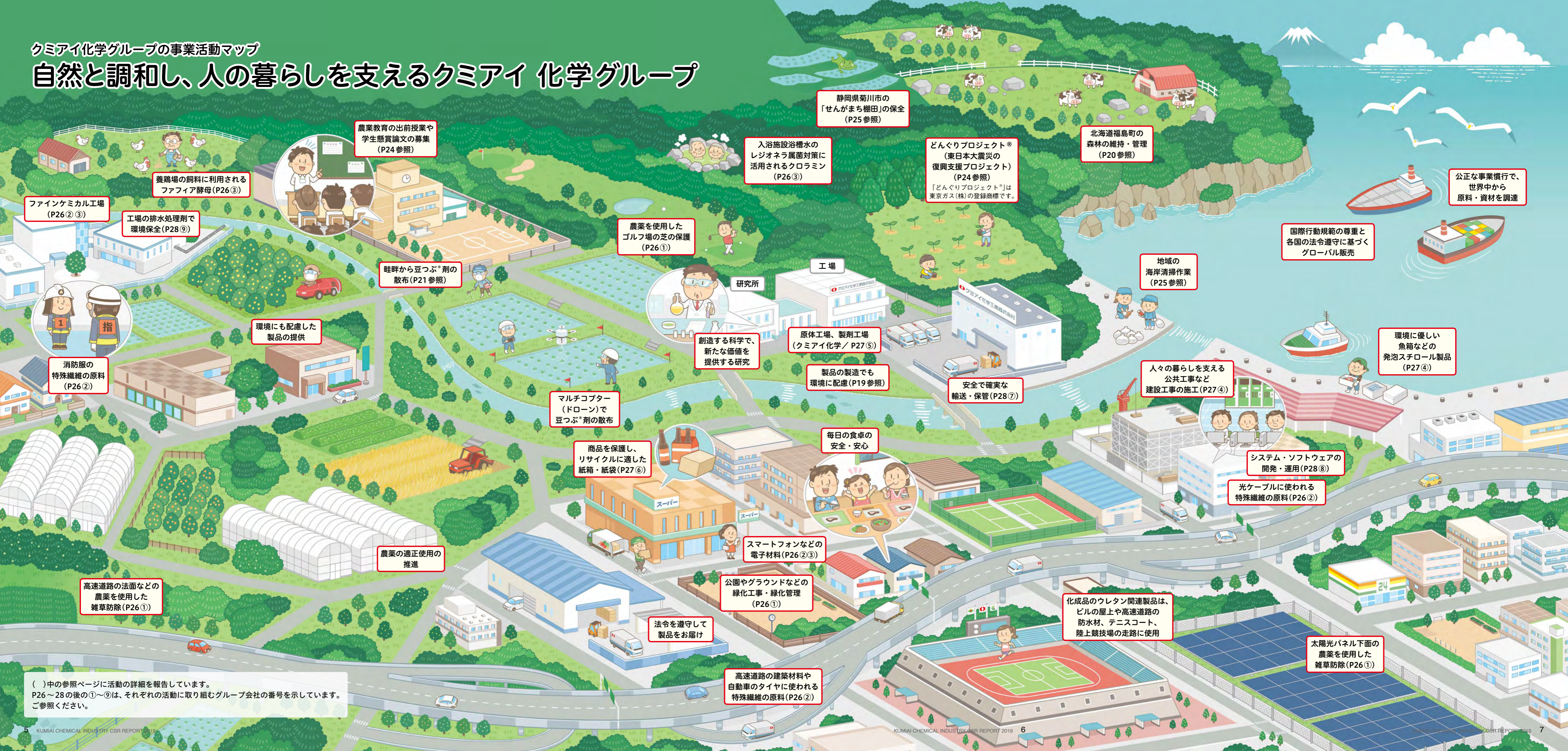
ステークホルダーの皆さまの忌憚のないご意見やご指摘、私どもに期待される点を、ぜひお聞かせください。今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく申し上げます。

代表取締役社長

小池好智



自然と調和し、人の暮らしを支えるクミアイ 化学グループ



ファインケミカル工場 (P26②③)

養鶏場の飼料に利用される
ファフィア酵母 (P26③)

工場の排水処理剤で
環境保全 (P28⑨)

農業教育の出前授業や
学生懸賞論文の募集
(P24参照)

畦畔から豆つぶ®剤の
散布 (P21参照)

環境にも配慮した
製品の提供

消防服の
特殊繊維の原料
(P26②)

農業を使用した
ゴルフ場の芝の保護
(P26①)

創造する科学で、
新たな価値を
提供する研究

マルチコプター
(ドローン)で
豆つぶ®剤の散布

商品を保護し、
リサイクルに適した
紙箱・紙袋 (P27⑥)

原体工場、製剤工場
(クミアイ化学/P27⑤)

製品の製造でも
環境に配慮 (P19参照)

安全で確実な
輸送・保管 (P28⑦)

毎日の食卓の
安全・安心

スマートフォンなどの
電子材料 (P26②③)

公園やグラウンドなどの
緑化工事・緑化管理
(P26①)

法令を遵守して
製品をお届け

高速道路の建築材料や
自動車のタイヤに使われる
特殊繊維の原料 (P26②)

静岡県菊川市の
「せんがまち棚田」の保全
(P25参照)

入浴施設浴槽水の
レジオネラ菌対策に
活用されるクロラミン
(P26③)

どんぐりプロジェクト®
(東日本大震災の
復興支援プロジェクト)
(P24参照)
「どんぐりプロジェクト®」は
東京ガス(株)の登録商標です。

北海道福島町の
森林の維持・管理
(P20参照)

地域の
海岸清掃作業
(P25参照)

国際行動規範の尊重と
各国の法令遵守に基づく
グローバル販売

公正な事業慣行で、
世界中から
原料・資材を調達

環境に優しい
魚箱などの
発泡スチロール製品
(P27④)

人々の暮らしを支える
公共工事など
建設工事の施工 (P27④)

システム・ソフトウェアの
開発・運用 (P28⑧)

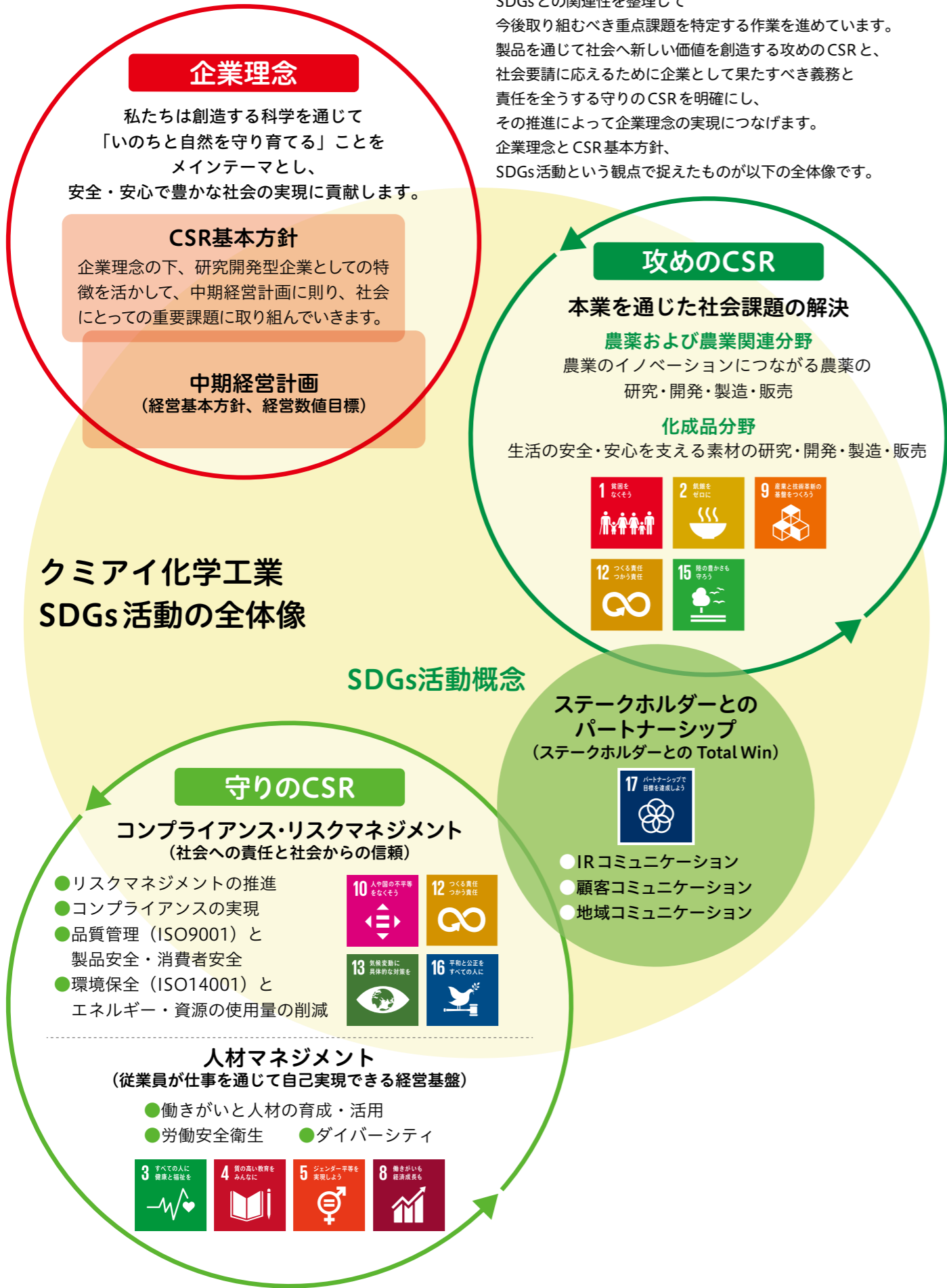
光ケーブルに使われる
特殊繊維の原料 (P26②)

化粧品のウレタン関連製品は、
ビルの屋上や高速道路の
防水材、テニスコート、
陸上競技場の走路に使用

太陽光パネル下面の
農薬を使用した
雑草防除 (P26①)

()中の参照ページに活動の詳細を報告しています。
P26～28の後の①～⑨は、それぞれの活動に取り組むグループ会社の番号を示しています。
ご参照ください。

企業理念とCSR基本方針



設立から70周年を経た今、当社の事業に対する理解と共感を醸成するために、SDGsとの関連性を整理して今後取り組むべき重点課題を特定する作業を進めています。製品を通じて社会へ新しい価値を創造する攻めのCSRと、社会要請に応えるために企業として果たすべき義務と責任を全うする守りのCSRを明確にし、その推進によって企業理念の実現につなげます。企業理念とCSR基本方針、SDGs活動という観点で捉えたものが以下の全体像です。

組織統治 Corporate Governance

クミアイ化学工業は、お客様や株主様をはじめとするステークホルダーの皆さまからの信頼と期待に応えるため、コーポレートガバナンス(企業統治)体制の強化・徹底による経営の透明性・健全性の向上に取り組んでいます。誠実な経営体制の構築と公正かつ迅速な意思決定により、グループ全体の持続的な企業価値の向上を図ることが目的です。



業務の適正化と経営の透明性を高める体制

クミアイ化学工業は、「業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)に関する基本方針」を定めています。この基本方針に基づいて、内部統制システムを適正に運用するための具体的な業務プロセスに沿った「水準」を示す「内部統制システム運用管理規則」を定め、適正な運用を図っています。また、主要なグループ企業に対して「グループ企業の内部統制システムの整備・運用のためのガイドライン」を設け、会社の規模に関わらず各社が「業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)に関する基本方針」を定めています。さらに、クミアイ化学工業は、「財務報告に係る内部統制の基本方針」を定めています。この基本方針に基づいて、組織の業務全体に係る財務報告の信頼性を確保するために、財務報告に係る内部統制の適正な整備・運用に取り組んでいます。

Voice

コーポレートガバナンスのさらなる強化を推進していきます。

クミアイ化学工業 専務取締役 (コーポレートガバナンス統括室担当) 高木 誠

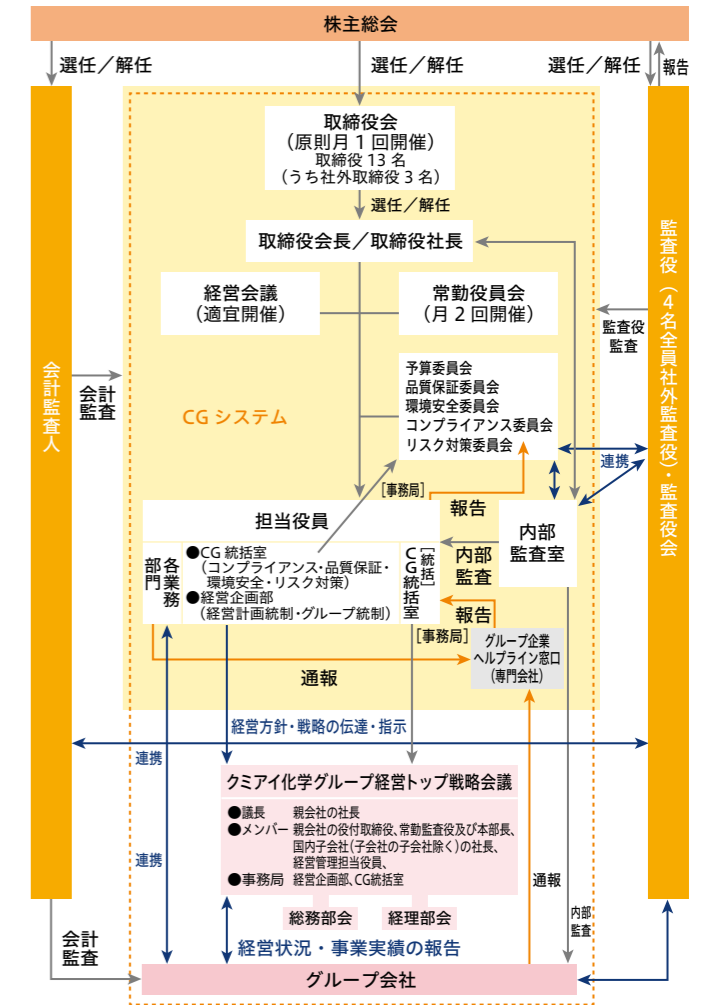


当社はコーポレートガバナンス体制図に示す通り、法令・倫理の遵守、経営チェック機能を発揮する管理体制を整備し、コーポレートガバナンス体制の強化に取り組んでおります。

また、クミアイ化学グループ経営トップ戦略会議を設置し、当社社長がその議長を務めております。グループ企業各社に対する基本理念の浸透に加え、経営戦略並びに中期および単年度経営方針を共有するとともに経営状況を把握しております。また、この経営トップ戦略会議の下に総務部会、経理部会を置き、子会社の実働部隊にまでこの方針を浸透させることでグループ全体の企業価値の向上を図っております。

コーポレートガバナンス体制図

以下の通りコーポレートガバナンス体制を構築しています。



クミアイ化学グループ経営トップ戦略会議

グループの経営方針や経営戦略の共有とグループ内の内部統制システムの強化を図るために、当社の役付取締役、常勤監査役および本部長と、グループ企業の社長および管理担当取締役を構成員として、年3回、「クミアイ化学グループ経営トップ戦略会議」を開催しています。また、下部組織として、経営トップ戦略会議の内容を実務へブレイクダウンする「総務部会」と連結決算を円滑に進めるための「経理部会」があります。

人権と労働慣行

Human Rights and Labor Practices

クミアイ化学工業は、あらゆる企業活動に際して基本的な人権の尊重を最優先に考え、雇用や人材の活用において多様性の重視を徹底しています。さらに、ダイバーシティの推進や社内コミュニケーションを促進することにより、従業員一人ひとりが働きやすい環境整備に努めています。



人権の尊重

クミアイ化学工業は、企業活動において出生、国籍、人種、民族、信条、宗教、性別、年齢、心身の障がいや性的マイノリティなどを理由とした差別を行わず、基本的な人権を尊重することを行動規範に掲げています。

海外で展開する事業においても、世界各地のさまざまな文化や慣習を尊重すると同時に、当社の事業活動を通して現地の発展に貢献すべく努力しています。また、児童労働・強制労働などの人権侵害に加担することなく、これらの排除・廃絶に向けた国際的な取り組みを支持し、すべての人々の人権が守られる社会の実現を目指します。

私たちは、企業市民として社会への責任を果たし、より深い信頼を得るために、国際行動規範の尊重などISO26000(社会的責任の国際規格)の視点を踏まえたグローバルな社会的責任の理解と実行のために、従業員の啓発と教育に努め、意識向上を図っています。

外部講師による 新入社員向け営業研修&フォローアップ研修

通常の新入社員研修に加えて、国内営業本部では、講師(株式会社セールスアカデミー)を招へいして、新入社員に向けた配属前の営業基礎研修と配属後の9月および翌年1月にフォローアップ研修を実施しています。クミアイ化学工業の一員として農業製造・販売事業に取り組むために必要なマインドやスキルから、一人の社会人として尊重すべき人権やダイバーシティの重要性を学ぶことが目的です。一方的な座学ではなく、ロールプレイングやプレゼンテーション、グループでのディスカッションを交えた研修により受講者の一人ひとりが考え、アウトプットすることで、より深い理解を促しています。



研修中の様子

ダイバーシティの推進

クミアイ化学工業は、多様な人材が生き生きと働き、能力を最大限に発揮できる組織風土の醸成や各種制度の整備を通じて、ダイバーシティの推進に積極的に取り組んでいます。

当社の人事施策の策定・運用にあたっては、女性の活躍推進、高齢者および外国人の雇用に注力し、一定の成果を上げてきました。多様性を尊重する職場環境は一般社員の働きやすさにもつながり、新卒入社3年以内の離職率はゼロに近い水準で推移しています。

障がいの雇用においても、職業能力の向上と働きがいを提供する環境づくりに努め、一時的に障がい者雇用率が低下した時期もありましたが、現在は、障害者雇用促進法に定められた法定雇用率を維持しています。

●新卒採用者定着状況(3年目までの離職者数)

入社年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
入社人数	21人	21人	23人	31人	36人
3年目離職者	1人	0人	2人	0人	1人
離職率	4.8%	0.0%	8.7%	0.0%	2.8%

●障がい者雇用率の推移

	2015年 6月	2016年 6月	2017年 6月	2018年 6月	2019年 6月
障がい者雇用率	1.7%	2.1%	1.4%	2.5%	2.8%
法定雇用率	2.0%	2.0%	2.0%	2.2%	2.2%

従業員幸福度調査の実施

クミアイ化学工業は、中期経営計画のスローガンの一つに「幸せで日本一の永続企業」を掲げています。そのための現状把握として「従業員幸福度調査」(外部業者によるアンケート調査)を実施しました。総合満足度は製造業一般と比較して高く、会社のブランドを背負って働く意識、従業員としての誇り、入社および在職の肯定意識などに高い傾向が認められました。要因解析として満足度を高めているのは、「会社の

将来性」、「職場の人間関係(上司との関係)」であることが判明しています。一方、さらなる満足度向上のために浸透すべき点として「公平性」、「異動の際の配慮」が挙げられました。抽出された課題の改善を図り、従業員幸福度の一層の向上を目指します。

共和会活動で役職員と家族の交流を推進

クミアイ化学工業では、役職員の親睦と福利厚生や相互共済を図る目的で「共和会」を設置しており、本社・事業所に14の支部があります。各支部では、定期的にさまざまな活動を行っています。

富士支部では年に一度バス旅行を実施。2019年度ははまっフルーツパークでのイチゴ狩りとバーベキュー、浜松航空自衛隊広報館エアパークでの施設見学を行いました。今後も役職員とご家族との親睦を深め、リフレッシュできるイベントを通じて、働きがいを高め、豊かな暮らしをバックアップします。



美味しいお肉で子どもたちも大喜び



旅の最後に記念撮影

Voice



お客様との信頼関係を築くための根幹となる意識を習得します。

クミアイ化学工業 国内営業本部企画普及部普及課 飯下 正明

入社後すぐに受けたセールスアカデミーの研修では、クミアイ化学工業で働くことに対する意識づくりから営業の仕事のプロセスについて10日間しっかり学びました。最も印象的だったのは「営業はお客様のお役立ち業であるということです。常にそれを意識しな

がらお客様と接することで、深い信頼関係を築けるようになりました。異動した後も、担当していたお客様から連絡をいただけるのは、とても喜ばしいことです。営業の現場に出る前に、実践的な研修を受けた成果だと思っています。

公正な事業慣行

Fair Operating Practices

クミアイ化学工業は、グループ全社で法令や社会規範の遵守を徹底し、公正・誠実な事業活動に取り組んでいます。従業員一人ひとりが倫理的価値観を共有し、お客様の信頼と期待に応えることへの誇りと責任のもとに、取引先の地位や権利を尊重して公正かつ健全な関係性の維持に努めています。

クミアイ化学の行動規範

クミアイ化学工業は、役員および従業員の反道徳的な行動やマナー違反などにより企業の信用、ブランド価値、企業イメージが傷つき、著しく低下するようなリスクを防ぐために、「クミアイ化学行動規範」を定めてコンプライアンス基盤の強化に努めています。

企業倫理にとどまらず、国際行動規範の尊重などISO26000(社会的責任の国際規格)の視点を踏まえたグローバルな倫理的価値観と責任を理解し、関係するすべてのステークホルダーからの信頼と期待に応えられるよう取り組んでおり、行動規範に則る行動を実現するために、法令、社内規程、各種ガイドラインなどにに基づき、守るべき事項をまとめた「行動基準」と、行動基準の理解を助けるために、Q & A形式で細かな要点をまとめた「行動基準Q & A」を定めています。加えて、役員および従業員として良識ある行動を取るために、守るべきこと、守ることが望ましいことを具体的にまとめた「倫理基準」を定めています。

独占禁止法・下請法への対応

クミアイ化学工業は、安全で高品質な製品とサービスの提供を喜びとし、誠意をもって公正な販売・購買活動と適切な広報活動を行うことにより、お客様およびお取引様とのTotal Winな関係性の構築を目指しています。

お取引先様の地位や権利を尊重し、良識の範囲を超えた過剰な接待・贈答を禁じ、関連法令や公正な商習慣に従って健全な関係を維持します。

国内での販売・購買関連法令では、カルテルや談合などの不当な取引制限、私的独占の禁止、優越的地位の濫用などの不正な取引方法の禁止、事業者団体の活動規制、企業結合の規制等、独占禁止法・下請法の遵守を重視しております。海外でも競争法遵守を意識した公正な販売・購買活動を行っています。

事業活動に関わるサプライチェーンの構築においては、前出の独占禁止法・下請法・競争法遵守はもとより、CSRの推進や国際行動規範の尊重に配慮した適切な事業活動を行うべく、グループ全社に徹底しています。

コンプライアンス教育

クミアイ化学工業は、コンプライアンス体制の強化と企業倫理の浸透を図るため「クミアイ化学行動規範」において、法規範(社内規程類を含む)、社会的規範の尊重、企業倫理などに関する研修を定期的に行うことを定めています。

業務に携わるすべての従業員がクミアイ化学工業の倫理的価値観に基づき行動することにより、強固なコンプライアンス

ス基盤の構築・維持に努めています。

具体的な取り組みとしては、各部門・事業所ごとにコンプライアンス教育計画を作成して実施管理するほか、外部講師を招いて教育講演会を開催し、コンプライアンス意識の向上を図っています。

また、定期的にコンプライアンスに関する意識調査を行い、認識・浸透の度合いについて評価した結果を、教育計画に活かしています。さらに、コンプライアンスについて周知徹底を図るために、チラシやメールマガジンを定期的に発信しており啓発・浸透に大きな成果を上げています。

さらに、クミアイ化学グループの役職員に求められるコンプライアンスのレベルや倫理観を理解してもらい、コンプライアンス意識を根付かせるために、2019年度はオリジナルのコンプライアンス小冊子を製作してグループ企業を含む全役職員へ配付しました。



コンプライアンス研修の様子

リスク管理体制

クミアイ化学工業は、平時のリスク対応としては、「リスク管理規則」に基づき、コーポレートガバナンス統括室がリスク管理を統括・推進しています。さらに、「リスク対策委員会」で全社的または組織横断的なリスクおよび部署別リスクの洗い出しと対応策を取り纏めるとともに、各部署のリスク情報を集約して、共有化を図っています。

重大なリスクの発生など有事の対応は、経営リスク管理規程に基づき、リスク対策本部が設置され、対策の決定や対外的な対応などを行う体制になっています。

SDGs勉強会

クミアイ化学工業は、管理職者を中心に事業活動におけるさまざまなリスクの再認識と社会規範の遵守徹底を図る目的で、外部講師(株式会社オルタナ/オルタナ総研)を招き、SDGs勉強会を実施しました。社会的関心が高まっているSDGs、CSR、ESGの観点から企業の行動規範、法令遵守、公正な取引、企業不祥事の防止など、リスクマネジメントに関する事例を学び、ネガティブ・インパクト(負の影響)についての理解を深めました。

また、取引先とのパートナーシップの強化やジェンダー平等、社会的課題起点のビジネス創出など、SDGsが掲げる目標の達成に貢献することでポジティブ・インパクト(企業価値の創造)の最大化につながることも共有を図りました。今後、社内浸透と具体的実践を目指していく考えです。



SDGs勉強会の様子

Voice



リスク管理は内部統制の要であることを認識することが大切です。

クミアイ化学工業 コーポレートガバナンス統括室長 三浦 一郎

コーポレートガバナンス統括室では、各部署が抽出したリスクの対応策、進捗、課題について、各部署とヒアリングを行いながらPDCAサイクルを回すことをサポートしています。

リスク管理は内部統制の要であり、適切な

リスク管理が重要であるという共通認識を持つためには、リスク文化の醸成と浸透が大切であると考えています。

安全衛生

Occupational Safety and Health

クミアイ化学工業は、従業員の健康づくりの支援などさまざまな安全衛生活動に取り組んでいます。また、農薬を製造する化学メーカーとして、工場における万一の事故や、大規模な自然災害の発生に際して、従業員の安全・安心を守り、周辺地域に影響を及ぼさないように、安全教育と防災訓練による安全活動を推進しています。工場の安全診断を社外に委託するほか、地元消防団への協力・指導など地域社会との連携により事故・災害への備えを徹底しています。



静岡工場における取り組み

●保安・安全活動

静岡工場では、従業員への安全教育として年1回「安全大会」を行い、安全に関する講演や設備説明会を実施しています。また、プラント対抗の失敗語録やKYT（危険予知訓練）イラストシートを作成するなど趣向を凝らしたプログラムも取り入れています。「安全大会」で寄せられた現場の意見をもとに、今後の対策などについて検討する安全操業会議を毎月運営しています。このほか、製造に関わるリスクアセスメント、使用する化学物質の危険性、万一の時の対応などを周知徹底する目的で、製造開始前に行う生産前教育も実践しています。

工場における安全診断として外部のコンサルタントに委託し、内部の従業員には気づきにくいリスクの抽出を行っています。これによりレベルの高い改善につながった事例もあり、ほかの工場でも導入を始めています。

さらに、各プラントに「ヒヤリハットノート」を設置し、担当者が気づいた小さなリスクを現場報告として漏らさず収集する取り組みを実行中です。報告には作業長、課長、工場長がコメントをつけてフィードバックすることで、現場の共有と報告意欲の喚起につながっています。

●防災と労働安全衛生

静岡工場における防災活動として、月1回の自衛防災隊各係別の基礎訓練とともに年2回の総合防災訓練（漏洩事故、地震）を実施しています。ここ数年来、漏洩事故災害訓練の際には富士市西消防署の参加・協力のもとに実践的な指導を受けています。また、富士市防火協会に加盟し、操法大会や出初式などの行事参加を通じて協力関係を深めています。

従業員の労働安全衛生にも力を入れており、安全衛生年間計画のもとに月例の教育を各部署で実施し、健康の維持と増進を図っています。

小牛田工場、龍野工場における取り組み

小牛田工場と龍野工場では、毎年総合防災訓練（漏洩事故、地震）を実施しています。この訓練では、火災、漏洩事故、負傷者の発生を想定し、消火班による消火活動や応急救護班による負傷者への応急処置や搬送訓練などを行っています。

近年、日本各地で地震や豪雨などの自然災害が増えています。こうした災害は自分たちの職場でも起こり得るという意識を持って、一人ひとりが真剣に訓練に取り組んでいます。また、漏洩事故は起こさないことが一番の防災ですが、万が一起こった場合、適切に対処できるようにさまざまな状況を想定して訓練に当たっています。訓練を行うことで、実際に災害や事故に遭った時に従業員や設備への被害を最小限に抑

えるのはもちろんのこと、地域住民の皆さまをはじめとするステークホルダーの心身の健康を守ることにもつながっていると考えています。



龍野工場での総合防災訓練の様子

Voice

リスクアセスメントを実行することで安全の徹底を図っていきます。

クミアイ化学工業 生産資材本部生産部
龍野工場品質保証課 課長 平岡 学



工場で生産活動を行うにあたって、大前提となるのが安全最優先です。従業員やステークホルダーの皆さまの心身の健康を守れなければ、いくら良い製品を安く作っても意味がありません。安全最優先を実現するためには、従業員一人ひとりが自分の行っている作業にどんなリスクがあるかを知り、考えることが重要です。そのために日々のミーティングや定期的な勉強会で過去の事故事例を学び、リスクアセスメントを行い、知識や考える力を身に付けています。

従業員の健康づくりを支援する取り組み

クミアイ化学工業の従業員が加入している報徳同栄健保組合では、検診費用の補助をはじめ、さまざまな事業を実施して健康づくりを支援しています。

人間ドック、脳ドックについては、一定条件を満たした加入者への特別事業補助により、受診を奨励しています。また、成人病予防を目的とした「健康づくり運動」に取り組み、従業員一人ひとりが自分の体力に合った運動を継続できる環境の整備に努めています。

●定期健康診断の受診率

2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
100%	100%	100%	100%	100%

Voice

従業員の健康維持と増進を図るべく適切な活動運営を行います。

報徳同栄健康保険組合 理事長 加藤 進 様



報徳同栄健康保険組合は1963年5月に国の健康保険事業を代行する公法人として認可設立されて56年が経過し、現在はクミアイ化学グループを中心に22事業所、被保険者数約2,440名で活動運営しています。高齢者医療制度への拠出金負担が増加するなか、各事業所および被保険者からの保険料などを資金にして、疾病予防や健康増進等の事業展開で医療費の適正化を図り、被保険者および被扶養者の皆さまが健康に暮らせるように運営しています。

Environmental Activities

クミアイ化学工業は、農薬メーカーとして市場ニーズに即した安全・信頼性の高い農薬の製造に全力を傾けています。また、“環境にやさしい”農薬の開発に努めるほか、山林や棚田の保全、環境マネジメントシステムに基づいた生産活動のなかで、工場が適切な環境保全管理を実施するなどの幅広い環境活動に取り組んでいます。

環境方針に基づく取り組み

クミアイ化学工業は、環境マネジメントシステムを確立・実行し、継続的改善により環境負荷を軽減するという方針のもと、従業員一丸となって地球環境の保全に取り組んでいます。

農薬の原体・製剤の生産を業務としている当社は、生産に係わるすべての業務活動の中で、環境への影響が大きいと考えられる以下の項目について継続的な改善を図ることにより、積極的に環境汚染の予防に努めています。

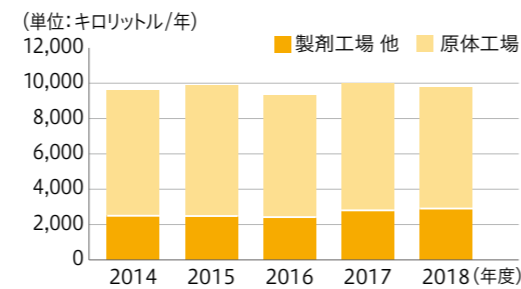
- ①省資源・エネルギーの推進
- ②3R (Reduce、Reuse、Recycle)の推進
- ③産業廃棄物の削減・適正処理

さらに、環境に関連する法規およびその他の要求事項を遵守するとともに、レベルの高い自主基準を設けて、エネルギー使用量やCO₂排出量の維持と改善に注力しています。

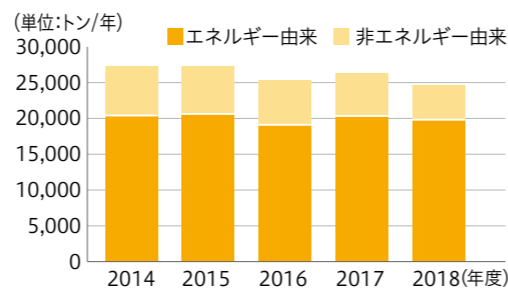
特にPRTR^{*}で定められた第一種指定化学物質の排出・移動量については、2015年度からの4年間で大きく削減できました。

※ Pollutant Release and Transfer Register：化学物質排出移動量届出制度

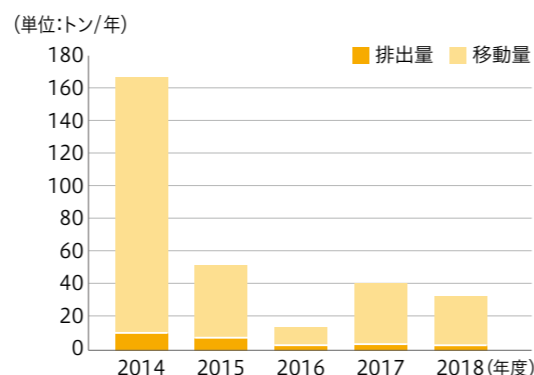
●エネルギー使用量(原油換算, キロリットル/年)



●CO₂排出量(トン/年)



●PRTR第一種指定化学物質の排出・移動量(トン/年)



●PRTR第一種指定化学物質 トップ5

化学物質名	2014～2018年平均 排出・移動量(トン/年)
①トルエン	40
②N,N-ジメチルホルムアミド	8
③塩化ベンジル	5
④クロロベンゼン	4
⑤塩化メチレン	1

製剤工場における取り組み

龍野工場では、生産活動により発生する農薬成分を含む排水を、活性汚泥処理法と凝集沈殿処理法を併用して無害化を図り、公共の下水道へ放流しています。

活性汚泥処理では、空気を送り込んで曝気した水槽内で、排水中の有機物を好気性微生物(活性汚泥)の代謝を利用して分解し、沈殿槽にて汚泥と分離した上澄み液を1次処理水として地下ピットに貯留します。

凝集沈殿処理では、地下ピットから反応槽に汲み上げた1次処理水に凝集剤を添加して、1次処理水中の浮遊物を凝集・沈殿させて分離した上澄み液を最終処理水として公共の下水道へ放流しています。

毎日の設備・薬液管理に加え、専門業者による運転維持管理を週に1回実施して、最終処理水の水质が法による基準値を超過しないよう厳しい管理を実施しています。



活性汚泥処理設備



凝集沈殿処理設備

有効年延長による農薬廃棄物の削減

農薬の有効期限は、農薬メーカーによる保存安定性試験の結果をもとに、法律に基づいて品質保証できる期間を決めています。時間の経過とともに有効成分が分解したり、物理性が変化することがあるからです。しかし、こうした品質変化は、農薬製剤の処方(補助剤の種類や配合量)や包装形態を適切に選ぶことによって抑えられます。クミアイ化学工業は、できるだけ長い有効期限を設定するように、開発段階から製剤処方と包装形態の最適化を図るとともに、精度の高い保存安定性試験を実施し、農薬廃棄物の削減に取り組んでいます。

北海道の山林を維持・管理し 生物多様性の保全に貢献

クミアイ化学工業は、北海道福島町に約640ヘクタール(面積換算で東京ドーム136個分)の山林を1974年に取得し、地元の森林組合と契約して維持・管理しています。山林の間伐・下刈りなどの保全活動が樹木の生育を促し、年間2,400トンのCO₂を吸収することにより、温室効果ガスの抑制効果を最大にしています。

さらに、土壌の涵養により近隣の海へ十分な栄養が行き渡り、名産品のいかや昆布の育成に良好な影響を与えています。また、良質なスギやマツの木材を供給するとともに、管理活動が地元の雇用につながるなど、豊かな自然環境を保全しながら、地域の活性化にも貢献しています。



北海道福島町の山林

Voice



環境負荷を低減するため工場排水の適切な処理を行っています。

クミアイ化学工業 生産資材本部生産部 龍野工場総務課 栗岡 秀明

龍野工場では、農薬の生産活動により発生した排水を適切に処理することで、環境の維持改善を図っています。生産系列から発生した排水は廃水処理設備に集約され、微生物の代謝を利用した活性汚泥法と化学薬品の化学的作用を利用した凝集沈殿法の2つの処理法

で排水を浄化し、無害化した後に公共の下水道に排出します。活性汚泥法の要である微生物が元気に活躍できるよう、日々、設備・機器の運転管理を行っています。

消費者課題

Consumer Issues

クミアイ化学工業が、製品やサービスを通じて持続可能な社会の実現に貢献するためには、お客様からの理解と支持が欠かせません。お客様が抱えている課題の解決をサポートするためにコミュニケーションの機会を増やし、安心して製品をお使いいただくための情報提供に力を注いでいます。

お客様との交流で意見を交換し、開発・製造にフィードバック

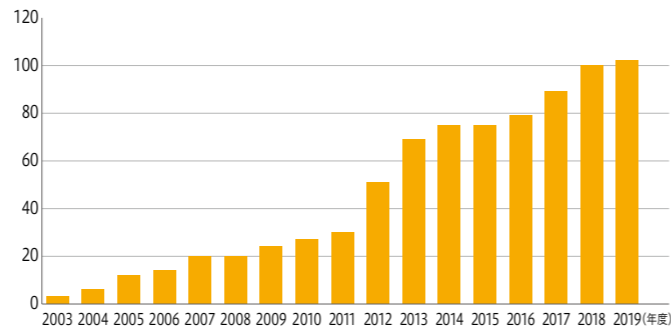
クミアイ化学工業が販売している製品について、農家の皆さまに製品の理解を深め正しく有効に使用していただけるように日頃から交流活動を行っています。

その一例が豆つぶ®剤の実演会です。高齢化する農家の農薬散布作業を軽減するために生まれた豆つぶ®剤は、従来に無い剤型と散布方法を実現したことから、全国各所で実施する展示会などで情報交換の場を設けています。当社工場の視察や現地圃場での実演会では、実際に豆つぶ®剤の散布体験をしていただき、使用方法や省力性を確認してもらっています。見て、触って、散布を体験してもらうなかで農家の皆さまが抱える課題や要望について意見交換をしながら、その内容を開発・製造にフィードバックしています。



●豆つぶ®剤実績推移

(単位:千ヘクタール/年)



豆つぶ®剤のラインナップの充実で飛散防止や熱中症リスクを軽減

豆つぶ®剤を開発した当初は水田除草剤のみでしたが、ご利用いただいた多くのお客様に簡易な散布方法が高く評価され、ラインナップの充実を求める声が当社に寄せられました。現在では本田で散布される殺菌剤・殺虫剤にも豆つぶ®剤のラインナップが広がっています。

夏場の本田防除は高齢化が進む農家にとって重労働になるため、簡便に散布できる豆つぶ®剤は、農作業中の熱中症リスクを低減できると考えます。また、農薬の飛散防止にも有

効です。当社は農家の皆さまとのコミュニケーションを重視し、人と環境にやさしい薬剤防除の形を提案しています。



ショキニー® 250グラム エンペラー 豆つぶ®250 アトリ 豆つぶ®250 スタークル 豆つぶ®250

ドローンやAIを活用した農薬散布でスマート農業へのシフトを推進

農薬の散布方法は手まき、ひしゃくおよび動力散布機での散布などが中心でしたが、農業就業人口の大幅な減少と高齢化が進むなかで、無人ヘリコプターやドローン、ラジコンボートなど、人手に代わる多彩な散布方法の適用が進んでいます。特に豆つぶ®剤は、軽量で拡散性に優れているため、ドローン散布との相性がよく、稲作の省力化への貢献が期待されています。

クミアイ化学工業は、農業用ドローンメーカー「ナイルワークス」に出資し、「空からの精密農業」を推進すべく豆つぶ®剤散布に適したドローンの散布装置の開発に協力しています。

日本の農業がIoTやAIを活用したスマート農業へシフトする過程において、農薬散布は省力化の効果を実感しやすい作業です。当社はこれからも、豆つぶ®剤のドローン散布によるスマート農業の普及に向けて努力を重ねていきます。



農業用ドローン

水稲除草剤の上手な使い方をお使いいただくためには適切な圃場管理が重要になります。

クミアイ化学工業の主力商品である水稲除草剤を有効にお使いいただくためには適切な圃場管理が重要になります。

そのため、クミアイ化学工業では、除草剤の効果が高まるようにホームページに「安定した除草剤処理層を作るための重要なポイント」というコンテンツを設けて、圃場管理のポイントを解説しています。



Voice



豆つぶ®剤の使用によって農薬散布の労力が大きく軽減しました。

新潟県糸魚川市 稲作農家 齋藤 孝栄 様

稲作を手がけて60年ぐらい経ち、現在は約2ヘクタールの田圃で稲を育てています。豆つぶ®剤を使うようになったきっかけは、友人の紹介でした。畦からのひしゃく散布や手散布をしており、従来の農薬に比べて非常に楽だと実感しています。豆つぶ®剤の効果

には満足しているので、もう少し遠くまで飛ばせるひしゃくがあるとさらに助かります。

コミュニティへの 参画・発展

Community Involvement and Development

クミアイ化学工業は、良き企業市民としてコミュニティとの関わりを尊重し、その発展に寄与しています。お客様や株主・投資家などのステークホルダーをはじめ、さまざまな共同体と積極的にコミュニケーションを図り、本業を通じた社会貢献活動への参画や地域社会との交流を推進しています。



インターンシップによる就労体験

化学研究所プロセス化学研究センターでは、毎年インターンシップにより中学生に就労体験の機会を提供しています。研究センターでの実習を通して「働くことや仕事とは何か」を考え、「化学や実験、ものづくりの魅力」を知ってもらう目的で行っています。実習内容は、工場の排水処理に用いる活性汚泥という微生物の塊を使った実験と観察です。微生物にエサを与えて、高速液体クロマトグラフィー（HPLC）という機器で有機物分解の様子を確認するほか、顕微鏡で微生物たちの世界を観察します。

インターンシップに参加した中学生たちが、農業の開発プロセスや会社組織について理解を深め、働くことや化学実験に興味を持てるようなプログラムを実施しています。

1日のスケジュール	
9:00	研究センター見学
10:00	研究室紹介・実習説明
10:30	実習-1 カテコール分解
12:00	昼休み
13:00	実習-2 TTC法・検鏡
15:30	体験終了



実験風景

大学への出前授業で農業について講義

学部学生、大学院学生を対象に、農業の基礎、作用機構、安全性・環境影響、ならびに遺伝子組換え作物（GMO）などについての講義を行います。これまで大阪府立大学、京都大学、名古屋大学、福井県立大学、新潟大学、静岡大学、静岡県立大学で実施しました。静岡県立大学では全学部学生と食品栄養科学専攻の大学院生に向けて4年間で5回の講義を行い、同大学の副学長から、有意義だったという評価をいただきました。

植樹から育樹の段階へと進む どんぐりプロジェクト®活動報告

2013年に宮城県で始めたどんぐりプロジェクト®は、地域の皆さまと収集したどんぐりを苗木に育てて、海岸防災林として植樹するというものです。苗木は当社の研究所でポットに植え付けて育成し、宮城県内の従業員およびその家族が植樹を行いました。現在は3回の植樹活動を経て、育樹の段階へと進んでいます。

2019年8月には、前年植樹を行った仙台市荒浜北官林で、除草作業を実施。草を取り除いた後に、コナラと松の着実な成長を確認できました。今後は補植活動の予定もあり、継続して育樹活動を続けていきます。

*「どんぐりプロジェクト®」は東京ガス(株)の登録商標です。



育樹活動の様子

生物科学研究所の地元、 菊川市の祭典へ参加

生物科学研究所の所在地である静岡県菊川市では、毎年10月に秋の祭典が行われます。生物科学研究所は、祭典期間中に所内を開放して近隣の皆さまと一緒に祭典交流会を実施しています。また、ほかにも菊川市の駅伝大会や交通安全、健康づくり運動などに参加しており、今後も継続して地域の皆さまに親しみを持っていただけるよう活動していきます。



秋の祭典の様子

美里町の祭礼時に駐車場を開放

宮城県美里町で毎年1月に行われる山神社の「どんと祭」は、お正月飾りや書初めを火にくべて焼き、歳神様をお見送りする地域の伝統的な祭礼で県内外から多くの観光客が訪れます。小牛田工場では期間中に構内の駐車場を開放し、地域観光事業の振興に貢献しています。同工場では、近くの高校からインターンシップを受け入れていますが、参加した生徒から、「どんと祭で駐車場を貸してもらって興味を持ったので、研修先にクミアイ化学を選んだ」と言われたこともあります。また、このほか七五三、安産祈願、「あやめ祭」などの際にも駐車場を開放して地域との結びつきを深めています。



「どんと祭」の様子

たつの市の花火大会へ協賛

龍野工場は、毎年夏に兵庫県たつの市で開催される「龍野納涼花火大会」に協賛しています。2019年は約7万人の人出で賑わいました。龍野工場の社宅駐車場は絶好の観覧場所のため、当日は夕方から社宅の入居者と近隣にお住まいの方々が集まり、花火を見ながらバーベキューを楽しみました。



花火大会のポスター(上)と当日の様子(左)

世界文化遺産、三保の松原で清掃活動に参加

静岡県静岡市にある三保の松原は、松林が茂る浜辺から眺める富士山の景勝地として有名です。2013年には世界文化遺産「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産として登録されましたが、近年、海岸に漂着する流木やゴミの堆積が問題となっており、県、NPO法人、地元有志会などによる美化活動を実施中です。化学研究所製剤技術センターは静岡市の環境保全推進協力会が主催する「三保真崎海岸清掃活動」に参加し、景観を維持するための海岸清掃に協力しています。



三保海岸での清掃活動の様子



三保の松原の風景

静岡県でせんがまち棚田の保全活動を支援

せんがまち棚田は静岡県牧之原台地の一部で、その面積は10.1ヘクタール。生物科学研究所の北東10キロメートルに位置しています。

日本の原風景を今に伝える美しい景観と、希少な動植物の生態系を守るため、当社は棚田保全団体「NPO法人せんがまち棚田倶楽部」の賛助会員として保全活動を支援しています。研究所に配属される新入社員は、研修の一環として草刈りや畦を塗り固める作業を行い、険しい斜面を開墾して自然とともに歩んできた先人の努力を体験しています。



棚田の除草作業の様子

クミアイ化学グループのCSR活動

クミアイ化学グループ各社の事業活動の概要と、事業を通じたCSR活動について各社の代表に述べてもらいました。

① 株式会社理研グリーン

【設立】1957(昭和32)年6月 【本社所在地】東京都台東区東上野4丁目8-1
 【主な事業内容】当社は「緑化関連薬剤・資材事業」「産業用薬品事業」「土木緑化工事事業」の3事業を展開しています。緑化関連薬剤・資材事業ではゴルフ場、高速道路・鉄道等に除草剤、抑草剤、殺菌剤、殺虫剤、肥料などを販売しています。産業用薬品事業では製紙用化学品としてスライムコントロール、異物除去などの工程助剤や機能性添加剤などの薬品を販売しています。また造園工事、公園整備工事、防災公園工事やスポーツ施設などの芝生の育成・維持管理を行っています。



当社は、「緑をつくり、育て、守る」ことをモットーに人と自然が調和した豊かな社会の実現を目指して、これまで培ってきたノウハウと国内外メーカーとの強力な連携により、安全や環境に十分配慮した高度な技術力に基づく薬品の開発と、幅広い技術サービスの提供および環境緑化工事の施工・維持管理に取り組んでおります。また、社会の一員として、周辺地域の遊水地の保全・自然再生のためのクリーン作戦への参加や耳の不自由な子どもたちの育成、教育を支援するために学校法人日本聾話学校の後援会会員として協力をしております。 代表取締役社長 清水 等

② イハラニッケイ化学工業株式会社

【設立】1979(昭和54)年3月 【本社所在地】静岡県静岡市清水区蒲原5700番地の1
 【主な事業内容】トルエンとキシレンの塩素化から誘導される化学製品を中心として、農医薬、染顔料、樹脂、繊維等の広範囲にわたるファインケミカル分野の原材料を供給することで社会に貢献してきました。「顧客に感謝され喜ばれる商品を供給する」「品質・価格・技術力で世界一を目指す」「創造的思考で新しい価値を生み出す」「顧客・株主・従業員さらに人間社会の幸福を追求する」を企業活動の規範に全社一丸となって邁進します。



豊かな現代社会を支える人類の科学技術は高度化し、そのスピードは増えています。反面、環境を保護して美しい地球と貴重な天然資源を次代につなげることも、今を生きる私たちにとって大切な課題であります。私たちは、素材を生産する化学産業の中において、無駄のない効率的な生産に努めるとともに、限りある天然資源を最大限に有効活用し、人間の営みと地球環境保護の両立を目指して限りない挑戦を続けています。 代表取締役社長 山梨 了志

③ ケイ・アイ化成株式会社

【設立】1975(昭和50)年2月 【本社所在地】静岡県磐田市塩新田328番地
 【主な事業内容】電子材料向けビスマレイミド類、有機シラン類ほか、農業・医薬中間体などの各種有機中間製品の製造販売および研究開発を行う「化成事業」、さまざまな産業分野で用いられる殺菌剤、防錆剤および、その技術を利用した温泉消毒剤などの製造販売・研究開発を行う「産業薬品事業」、微生物の特徴を活かした安全性の高い医薬品原末、飼料添加物などの製造販売・研究開発を行う「バイオ製品事業」の3つの事業を展開しています。



クミアイ化学グループの化成事業を担う当社は、「顧客のニーズに応え自然と調和した科学を通じて豊かな社会づくりに貢献します」の経営理念を掲げ、また、CSR活動としては「環境保全まずは地域との共生から」のもと、環境汚染物質を分解する製品の研究および製造、海岸清掃、公益法人主催の山林ゴミ拾いへの協力、植樹の活動を通して自然環境の保全に努め、環境と生産活動との調和に配慮した企業活動を行っております。 代表取締役社長 早川 正人

Voice



日本の原風景を後世に伝えるために棚田保全は非常に重要です。

特定非営利活動法人 せんがまち棚田倶楽部 理事長 山本 哲 様

菊川市倉沢の棚田「千框」は戦国時代から四百数十年の歴史と、日本の原風景を今に伝える貴重な財産です。年々荒廃していく棚田を保全して後世に伝えようと1994年に活動を始め、今年で早25年、若かった私たちも年々負担が大きくなってきました。そんな

か、クミアイ化学工業様には心暖まるご理解とご支援を賜り、毎年4月には新入社員の皆さんにお手伝いいただき、心より感謝しています。体力の続く限り、棚田に隣接する世界農業遺産の茶草場も併せて守っていこうと頑張っています。

クミアイ化学グループのCSR活動

④ イハラ建成工業株式会社

【設立】1949(昭和24)年6月 【本社所在地】静岡県静岡市清水区長崎69番地の1
【主な事業内容】総合建設業においては、静岡県内を中心に公共民間を問わず建物の建築や土地の造成、道路の舗装や上下水道の敷設など、さまざまな工事を手がけています。また、発泡スチロール製造販売業においては、国内4か所(静岡、千葉、福島、宮城)に製造拠点を設け、魚や野菜を入れる箱、家電製品の緩衝材や部材、建設工事で使用されるブロックなどの製品を製造し全国に販売しています。



当社は、総合建設業と発泡スチロール製造販売業を通じて地域社会の発展に貢献しています。公共・民間工事を通じて人々がより暮らしやすい環境の整備に取り組んでいます。また、発泡スチロールは、省資源かつリサイクル率が高く地球環境にやさしい素材です。私たちはこれからも資源と環境の未来を見つめ、より社会に貢献できる企業を目指してまいります。
代表取締役社長 杉本 金市

⑤ 尾道クミカ工業株式会社

【設立】1972(昭和47)年10月 【本社所在地】広島県尾道市長者原二丁目160番地
【主な事業内容】農薬(粒剤、水和剤等)を製造し、クミアイ化学工業のほか、国内農業メーカー各社に供給しています。また、包装および農業原料の粉碎、混合を中心に工業化学品(樹脂添加剤、無機化合物、混合飼料など)の粉碎、混合、ふるい分け、小分け包装など、優れた技術をグループ内外のお客様に提供しています。



当社は、1972年に尾道市にある長者原工業団地の一角に設立されました。クミアイ化学工業から農薬を受託生産するほか、農薬の粉碎混合技術を応用してクミアイ化学グループ外のお客様より粉碎混合加工品を受託生産しております。
自然環境との調和および地域社会との共存を図りながら、独自の加工技術により農薬や工業化学品素材を供給することを通じて、広く社会に貢献しております。
代表取締役社長 高橋 一

⑥ 日本印刷工業株式会社

【設立】1943(昭和18)年11月 【本社所在地】静岡県静岡市駿河区中吉田14番35号
【主な事業内容】日本印刷工業は、1943年に創業し、親会社であるクミアイ化学工業の製品用の包装資材のほか、飲料、食料品、化粧品、工業品のパッケージ、一般印刷物など幅広い分野のパッケージ、包装資材、印刷物を提供しています。創業から76年、お客様と強い信頼関係を築き、大切な商品を守るパッケージの製造のみならず、印刷に係るノウハウに裏打ちされた、質の高い印刷物を供給しています。



企業の社会的責任を果たすため、廃棄物の減量化、資源化を図り、製造工程から発生する廃棄物の細分化と品質管理の徹底に取り組んでいます。また地域自治体と協力し、地域の子どものためのサマースクールの開催や、地域のお祭りに参加するほか、緊急時防災備品を地域住民と共有化すべく備蓄品の強化を図っています。また、支援学校の職場実習も毎年受け入れるなどCSR活動に努め、静岡市からCSRパートナー企業として認定を受けております。
代表取締役社長 堀江 良彦

⑦ 株式会社クミカ物流

【設立】1962(昭和37)年8月 【本社所在地】静岡県静岡市清水区渋川100番地
【主な事業内容】物流業においては、引火性液体である第4類危険物をはじめとした特殊危険物や毒物劇物などを取り扱う特殊物流サービスの深耕に努め、特殊物流のノウハウと設備基盤、社員資格を最大限に活用し安心・安全な物流サービスを提供しています。産業廃棄物事業においては、環境関連事業の重要性を認識し、適切な産業廃棄物処理を推進するために、コンプライアンスを重視した産業廃棄物総合コンサルティング事業を展開しています。



当社は、物流サービスの品質向上を通じた顧客満足度の向上、および複数のお客様の貨物を1つの車両にまとめて混載・配送する「共同配送」、地球環境負荷低減のためトラック輸送に比べてCO₂排出量が少ない鉄道・フェリーを使って貨物を輸送する「モーダルシフト」の推進に取り組んでいます。また、地元農家の皆さまから直接仕入れた地産野菜の販売とレストランの運営を通して、地元農業の活性化に貢献しています。
代表取締役社長 平林 義則

⑧ ケイアイ情報システム株式会社

【設立】1975(昭和50)年7月 【本社所在地】東京都台東区池之端1丁目4-26
【主な事業内容】クミアイ化学グループ各社からの受託データ処理、統合基幹業務システムの導入支援などの情報サービスを中心に、ソフトウェアの開発および販売、情報処理機器・事務用機器・理化学機器の販売などを手がけています。



当社は、クミアイ化学グループの一員として、同グループの行動指針「社会への奉仕、創意工夫、積極にして果敢、理解と信頼」を社訓に掲げ、法令を遵守し企業倫理に沿った透明で公正な企業活動を行っています。統合基幹業務システム導入支援・プログラム開発・ネットワーク構築をはじめとする幅広い情報サービスを提供することにより事業のIT化を推進。グループ各社の業務効率化を実現して、働き方改革に貢献しています。
代表取締役社長 高木 誠

⑨ 株式会社ネップ

【設立】1973(昭和48)年3月 【本社所在地】東京都台東区池之端1丁目4-26
【主な事業内容】東京都台東区の本社と、静岡県内に3か所の営業所と東海工場を構えています。第一事業部(化成品製造・卸部門)は、一般工業製品の小分け製造から自社配送までを行い、独自製品である重金属処理剤を販売しています。第二事業部(人材活用部門)は業務委託、専門技術者の派遣、環境整備や社員福利厚生事業、セキュリティ事業など、幅広く「技術」と「人」に関わる諸問題を解決するための事業を行っています。



ネップ(NEP: Nippon Environmental Protection)は商号でも示しているように「環境保全の会社」として「エコアクション21」を取得。地球環境の保全および食の安全・安心を重要課題と捉え、環境保全関連製品の提供、分析・測定・調査・販売を行っています。人材派遣事業においても環境教育などの指導を徹底するとともに、労働環境の多様化対応と効率化を推進しています。また、地域社会への関わりとして、NPO法人「鎮守の森を育てる会」などへの活動支援を行っています。
代表取締役社長 丸山 春樹